



今何度? そうねだいたいね

連日の最高気温の記録更新。それを知ってか知らずか、おやつを食べ終わると、園庭に駆け出していく子どもたち。その後ろ姿と窓越しに広がる真つ青な空を交互に眺めながら…今日は、部屋で過ごすべきなのか…まさかこんなことを案じる時代が来ようとは。昨今の夏はジレナマの季節です。

そして今、誰もが気になっているのが毎日の最高気温。このタイミングに乗じて、玄関脇にちよつと大きめの温度計をぶら下げてみました。

今日は何度かなと覗き込む大人に…きつと子どもはこう問いかけるはず。

「これ何?」

「おおつと…温度つてわかるかなあ。」

「温度計。赤い線が高いほど暑いのだ。」

「赤い線?」

「こつちからだに見えるよ。」

「ほんとだ。横の10とかは?」

(そりゃ気づくよねえ…ええつと…)

「赤い線のここ、30超えてるでしょ…それで、ひとつ…ふたつの線を超えているから、今は32度、だから暑いんだね。」

「どうして赤い線、動くの?」

(ええ!どうしてつて…)

とまあ、ここまで問われるかはわかりませんが、年齢やそれぞれの理解、興味に応じて、様々なレベルの質問が飛んでくるはずなので、それを何とか打ち返してみてくださいね。

そういった時に、「この説明は、まだ少し難し過ぎるなあ」と感じることはよくあることですが、人間とはよくできたもので、子どももあまりにも自分の理解を超えた返答は、すぐに諦めて深追いをしないものです。また、花が咲く理由や鳥が空を舞う理由にこだわらないように、あるがままを受け入れていく姿もまた子どもです。なので、理解の有無にはこだわらず、精一杯答えていけば、その取捨選択は子どもが勝手にやってくれます。一見不毛に感じるやりとりも、続けていけば、いずれ伝わる日が来るのです。それよりも、大人自身がそのことに関



心があること、心動いていること、面白がっていることを表現してあげることが、ずつと大事なことでと思うのです。読み取った温度を読み上げながら、「今日も暑いねえ。」と呟く姿を見ているうちに、温度計の持つ意味や役割を、子どもたちは少しずつ知っていくのです。やがて、呟かれている数字は、どうやら板に書かれている数字と関係があるらしいことに気づき、目盛りの読み取り方を尋ねられるかもしれません。そしていずれそれは、長さを測る定規の使い方にも生かされていくことでしょう。

大きい・小さい、長い・短い、多い・少ない、重い・軽い、暑い・寒い、硬い・柔らかい…この時期の子どもたちは、量を自分なりの感覚で、主観的に表現しています。なので、みんな「長い」棒を集めても、その長さはまちまちなのですが、「はかる」ことができれば、それぞれがイメージする長さを、より正確に共有して



いくことができます(厳密性)。また、料理の塩加減のように、量を測って投入すれば、いつも同じ味を作り出すことができます(再現性)。

主観的で曖昧で混沌とした乳幼児の世界を脱し、客観的で厳密で秩序ある文明世界へ駆け上がっていくために…「はかる」ことは大事なパスポートひとつのようないきがします。

ただ一方で、「だいたい」「たまたま」「自分なりに」が許されなくて、たまに窮屈に感じる大人社会から見ると、乳幼児らしいあの「いい加減さ」が、とても眩しく見えるのです。

先日、専門家の指導の元、親父の会のみなさんの力を借りながら、芝生のポット苗(苗床で育てた芝生)を、園庭の夏芝が剥けている箇所に移植していきました。

移植した芝は、今夏は十分に伸び切らなくても、その根は残っていて…来夏にまた勢いづき…これを3年

強い日差し、滝のような汗、最後のアイスクャンデー…この夏のひととき…親父たちに、ありがとうを。

園長 折井誠司

●編集 誠美保育園
●発行人 折井誠司
●印刷所 誠美保育園
●発行所 社会福祉法人 誠美福祉会
〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12
電話 042-675-1155
ファックス 042-677-5643
E-mail: seibi@nokuen.jp
http://nokuen.jp/